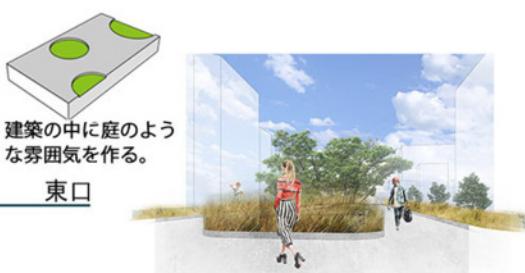


松戸駅前広場 共庭
緑が非常に乏しい駅前において、「園芸学 また、バスターミナルの整備が不十分な駅東口部があるまち」としてふさわしい表玄関となにおいて、駅から新拠点に至る建築を整理し、るよう、ボリュームのある植栽を行う。その軸線方向に新バスターミナルをつくる。



建築の中に庭のような雰囲気を作る。

東口

西口



・江戸川の狭い道に街路樹の続き



シンボル軸

水辺の玄関口 共庭 友庭
松戸の表玄関である松戸駅に対して、シンボル軸の終点となる江戸川は、かつて河川舟運で栄えた歴史とポテンシャルがあり、水辺の玄関口と位置付ける。江戸川では散歩、マラソン、サイクリングの他、水上アクティビティ



が可能であり、それらを誘発し、人と自然、人と人の交流を促す空間デザインとして、舞台広場と桟橋を設置する。これらの整備によって、江戸川の松戸側河川敷は、松戸・東京の大きな共有の庭となる。



松 緑のガイドラインを作る GI

- ・暗渠を撤去する。
- ・春雨橋親水広場で住民による植物を栽培する。
- ・シンボル軸の縁で並木道を作る。。
- ・「坂川木道橋」を再整備する。
- ・江戸川を利用して、「親水空間」を作成する



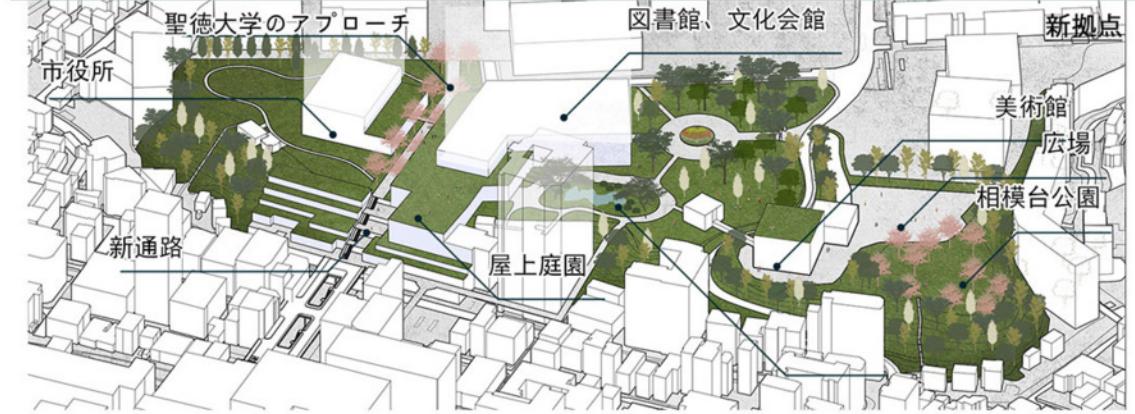
駐車場、駐輪場
共庭 友庭 知庭

松戸中央公園と相模台公園を一体的にリニューアルし、その中

に今までバラバラに配置されていた図書館、市民会館、市役所などの公共施設を一か所に集約する。公共施設屋上からは松戸のまちを見晴らすことができ、自分たちが暮らすまちへの愛着を深めることができる。

松戸駅から新拠点エリアに至るアプローチは、現イトーヨーカドー・ブラーを半地下化及び緑化することで、相模台のランドスケープを顕在化させ、人々を台地上へと誘う。また、台地上の聖徳大学まで至るアプローチは、大学の正門の軸線に合わせ、桜を植栽する。

バスターミナルをつくり、松戸駅東口の脆弱な交通インフラを補完する。
松戸中央公園では、これまで聖徳大学と千葉大学の連携による「アートパーク」などのイベントが行われてきたが、これに松戸市内の日本大学や流通経済大学を加えて、学生の成果を発信するイベントや、合同お花見会を実施することで、学生同士や学生と市民の交流を促進する。また公園内にはPark-PFIを活用したカフェをつくり、質の高い公園サービスを実現するとともに、新たに美術館を設置することで、名実ともに松戸の行政、文化、交流の中心となる。



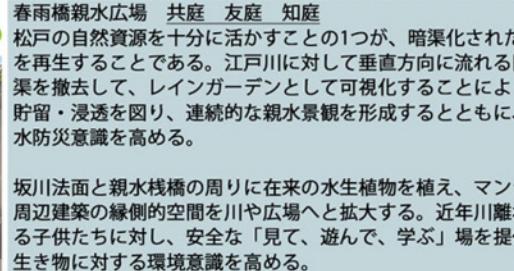
実現化方策

■Park-PFIの活用

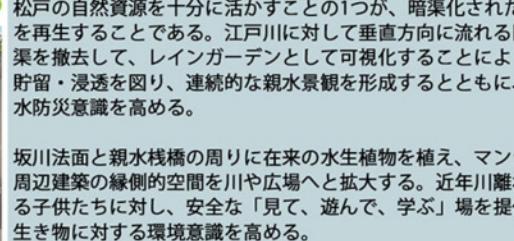
2017年6月に改正された都市公園法に、新たに創設された公募設置管理制度（Park-PFI）を新拠点エリアにおいて活用し、公園内にカフェを設置することによって、松戸中央公園の名にふさわしい質の高い公園空間を創出する。



春雨橋



春雨橋親水広場



坂川法面と親水桟橋の周囲に在来の水生植物を植え、マンション等の周辺建築の縁側的空間を川や広場へと拡大する。近年川離れが進行する子供たちに対し、安全な「見て、遊んで、学ぶ」場を提供し、川や生き物に対する環境意識を高める。

■市内大学との連携・交流

松戸市では、現在千葉大学、聖徳大学、流通経済大学と包括連携協定を締結している。市内にキャンパスがあり、まだ協定が締結されていない日本大学松戸歯学部とも協定を結び、市と各大学、及び大学間の連携を強化する。さらに現在、松戸市役所隣にある「松戸まちづくり交流室テント小屋」を基盤として、市内各大学や松戸市、地元コミュニティ団体等を加えた「（仮称）松戸まちづくり地域・学生交流室」を設立し、新拠点エリアや駅前広場を中心とした市内の「とも庭」で、まちづくり活動を先導的に展開する。これによって各大学の学生は、松戸市で学ぶことの価値がより高くなると同時に、愛着の増す学生時代を送ることができる。

共・友・知